

住友生命健康財団  
2014 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

# 選考結果のご報告

2014 年 10 月

公益財団法人 住友生命健康財団



## 目 次

1. 2014年度 選後総評	3
2. 2014年度 助成対象プロジェクト一覧	5
3. 2014年度 調査・研究助成 推薦理由	9
4. 2014年度 実践助成 プロジェクト概要	14
5. 2014年度 応募状況・選考プロセス	19

## 2014 年度 選後総評

選考委員長 小野 喬

### はじめに

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラムは、2010 年に住友生命健康財団の設立 25 周年を記念して、日本社会に適したコミュニティスポーツの意義と役割を調査・研究により明らかにし、コミュニティスポーツの実践を広めることを目的に創設した。

調査・研究助成は過去 4 年間で 36 件・4,732 万円、実践助成は過去 3 年間で 46 件・2,237 万円、東日本大震災復興支援特別助成は 10 件・1,085 万円、計 92 件・8,054 万円を助成している。

今年で調査・研究助成は 5 回目、実践助成は 4 回目を迎え、市民社会創造ファンドの協力を得て実施した。

### 応募状況と選考プロセス

調査・研究助成は新規に 61 件、継続に 5 件、計 66 件の応募があり、実践助成は新規に 95 件、継続 2 年目に 8 件、継続 3 年目に 4 件、計 107 件の応募があった。

新規助成は応募多数のため、予備選考と本選考の 2 段階で選考を行い、継続助成は本選考のみとした。選考体制は予備選考が 3 名、本選考が 6 名で、全委員が参加して選考を行った。

調査・研究助成の新規の選考は、予備選考と本選考の 2 度の書類選考、予備選考委員会と本選考委員会での 2 度の審議、事務局による現地ヒアリングを経て、委員長決裁を行った。

実践助成の新規の選考は、予備選考と本選考の 2 度の書類選考、予備選考委員会と本選考委員会での 2 度の審議を経て、委員長決裁を行った。

調査・研究助成の継続と実践助成の継続の選考は、次年度の企画に対する審査に加え、これまでの実績に対する審査も行い、選考委員会での審議を経て、委員長決裁を行った。

選考の結果、調査・研究助成の新規は 7 件・800 万円、継続は 3 件・462 万円、実践助成の新規は 11 件・520 万円、継続 2 年目は 8 件・382 万円、継続 3 年目は 3 件・136 万円、東日本大震災復興支援特別助成は 3 件・250 万円、合計 35 件・2,550 万円の助成が決定した。

### 選考のポイントと選考結果

選考は新規助成と継続助成の応募要項に記載した選考基準をベースに行った。継続助成の選考では 1 年目あるいは 2 年目の進捗状況や次年度への発展性なども評価した。

選考でポイントとなった点と選考結果の特徴を取りまとめると以下の通りとなる。

調査・研究助成では、新規性や独創性の点で期待できる内容が例年以上に見られた。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催を意識した内容も多く見られた。選考では、コミュニティスポーツの多様化や社会環境の変化が激しくなるなか、コミュニティスポーツの理念をしっかりと打ち立てているか、コミュニティスポーツの中心性や持続性を強化するものか、コミュニティスポーツの質的な向上やコミュニティスポーツを支える社会基盤の構築に貢献できるかが議論のポイントとなり、これらの点で高い評価を得た企画が助成の対象となった。また、コミュニティスポーツとトップスポーツが車の両輪となるための契機と捉えた企画も高い評価を得た。

実践助成では、人々の価値観やニーズが多様化し、コミュニティの弱体化や崩壊が指摘されるなか、スポーツがコミュニティを再構築する役割を担い得るかが議論のポイントとなった。助成の対象となった企画は何れも地域の多様な主体との連携や関与が見られ、ソーシャルキャピタルの醸成

に役立つ企画として高い評価を得た。助成の対象となった団体は中間時点で活動を振り返り、見直しを行い、諦めず、息の長い取り組みとなるよう願う。

## 最後に

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラムは今回で 5 回目を迎えた。当初の構想では 2010 年から 2014 年までの 5 か年を一つの区切りとしてプログラムの評価を実施し、2015 年から 2019 年までの 5 か年計画で次期プログラムの構想づくりに着手すると聞いている。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてさまざまな動きが起こり得るだろうが、日本社会におけるコミュニティスポーツの将来を見据えて社会変革を促すプログラムとなることを切に願っている。

## ○2014 年度選考体制

選考委員長	小野 喬	日本スポーツクラブ協会 相談役、住友生命健康財団 評議員
選考委員	稲山 貴代	首都大学東京 大学院 人間健康科学研究科 准教授
選考委員	中村 好男	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
選考委員	福岡 孝純	日本女子体育大学 招聘教授
選考委員	水谷 綾	大阪ボランティア協会 事務局長
選考委員	佐藤 昭雄	住友生命健康財団 常務理事・事務局長
予備選考委員	谷本 都栄	帝京大学沖永総合研究所 助教
予備選考委員	坂本 憲治	市民社会創造ファンド プログラムオフィサー
予備選考委員	澤 春生	(住友生命保険相互会社ブランドコミュニケーション部 推進役 兼 住友生命健康財団担当部長)

## 2014 年度 助成対象プロジェクト一覧

### A. 調査・研究助成 新規 [助成件数：7件、合計金額：8,000,000円]

\*個人研究

プロジェクト名	トップスポーツと地域との好循環モデルの構築に関する理論的・実証的研究 ープロ野球球団による少年野球アカデミー事業を具体例としてー		
代表者	名古屋セカンドキャリア研究会 中京大学 教授 石堂 典秀		
所在地	愛知県名古屋市	助成金額	950,000円
プロジェクト名	コミュニティスポーツの普及や定着の程度を測る尺度の作成と応用 ～高齢者向けの運動プログラムを例にとりて～		
代表者	三重大学 教育学部 准教授 重松 良祐 *		
所在地	三重県津市	助成金額	1,500,000円
プロジェクト名	運動を柱とした自主サークル活動の継続が高齢者の身体的側面・社会心理的側面に及ぼす影響		
代表者	特定非営利活動法人 長崎ウェルネススポーツ研究センター 理事長 中垣内 真樹		
所在地	長崎県長崎市	助成金額	1,600,000円
プロジェクト名	不可避的なスポーツ事故をめぐる補償の在り方の研究		
代表者	同志社大学大学院総合政策科学研究科 博士課程前期所属 中村 周平 *		
所在地	京都府京都市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	地域密着型プロスポーツ組織と地域社会との有機的関係に関する研究と実践 ーオーラル・ヒストリーの分析と映像アーカイブ化ー		
代表者	新潟経営大学 スポーツマーケティング研究室 (福田ゼミ) 准教授 福田 拓哉		
所在地	新潟県加茂市	助成金額	1,000,000円
プロジェクト名	公共スポーツ施設を核として指定管理者が促す地域協働を通じたコミュニティスポーツの促進		
代表者	東京工科大学 助教 松橋 崇史 *		
所在地	神奈川県藤沢市	助成金額	950,000円
プロジェクト名	視覚障がいパラリンピアン競技力向上とコミュニティスポーツ参加を目的とした調査研究		
代表者	筑波大学人間系内パラリンピック研究・支援グループ 筑波大学人間系長 宮本 信也		
所在地	茨城県つくば市	助成金額	1,500,000円

### B. 調査・研究助成 継続 [助成件数：3件、合計金額：4,620,000円]

\*個人研究

プロジェクト名	スポーツと立ち直りについて		
代表者	被害者と司法を考える会 代表 片山 徒有		
所在地	東京都台東区	助成金額	2,500,000円
プロジェクト名	自閉症スペクトラムのある児童のためのスポーツワークショップの開発とスポーツワークショップを通じたコミュニティ形成のためのプログラム開発		
代表者	金沢大学子どもこころの発達研究センター 特任助教 竹内 慶至*		
所在地	石川県金沢市	助成金額	620,000円
プロジェクト名	子どもの運動・スポーツに対して親がサポートしやすい生活環境とは？ ～妊婦を対象とした個人・家庭・地域レベルからのアプローチ～		
代表者	東北大学大学院医工学研究科 教授 永富 良一*		
所在地	宮城県仙台市	助成金額	1,500,000円

**C. 実践助成 新規** [助成件数：11 件、合計金額：5,200,000 円]

プロジェクト名	持続可能な自然活用によるスポーツ振興、観光振興のモデルケース開発プロジェクト		
代表者	スリーピークス八ヶ岳トレイル実行委員会 実行委員長 荒井 達也		
所在地	山梨県北杜市	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	船岡山ラジオ塔復旧修繕による住民の健康増進と地域防災拠点の整備		
代表者	船岡山ラジオ体操クラブ 代表 飯田 勝巳		
所在地	京都府京都市	助成金額	270,000 円
プロジェクト名	年間10種目以上のスポーツ体験活動【スポーツ探検隊】		
代表者	FIKA SPORTS CLUB 代表 飯田 琢郎		
所在地	神奈川県奏野市	助成金額	480,000 円
プロジェクト名	小児がんをはじめ長期療養中の子ども達の体力維持のためコミュニティースポーツプログラムづくりと実践		
代表者	特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス 理事長 大藪 恵一		
所在地	兵庫県神戸市	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	子供達の逞しい成長が地域を変える！スポーツ+αプロジェクト		
代表者	AKISPO U-9 SUPER KIDS PROJECT AKITA 代表 加藤 光平		
所在地	秋田県秋田市	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	サイクリング in 四国西予ジオパーク		
代表者	のむらスポーツクラブ 理事長 熊谷 武		
所在地	愛媛県西予市	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	子ども v s 親 サッカー大会～次は必ず勝ってやる！！～		
代表者	特定非営利活動法人 大豆戸フットボールクラブ 理事長 黒川 大吾		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	470,000 円
プロジェクト名	ユニバーサルスポーツを活用した地域の輪形成プロジェクト ートランポリンで、幼児から高齢者、障がい者を結ぶ		
代表者	一般社団法人 善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー 櫻中 勝信		
所在地	神奈川県藤沢市	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	障がいを持つ高校生の放課後スポーツクラブ「KAAC」		
代表者	江南高等特別支援学校放課後活動クラブの会（通称KAAC）会長 田中 明美		
所在地	新潟県新潟市	助成金額	490,000 円
プロジェクト名	孤立・非行少年たちのステップアップ・フットサル！		
代表者	特定非営利活動法人全国子ども福祉センター 理事長 鮎谷 慶菜		
所在地	愛知県名古屋市	助成金額	490,000 円
プロジェクト名	多様な子どもたちへ未来をつなぐグローバルな体験交流促進事業		
代表者	フレクティブ 代表 山本 洋士		
所在地	静岡県浜松市	助成金額	500,000 円

**D. 実践助成 継続（2年目）** [助成件数：8件、合計金額：3,820,000円]

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト		
代表者	総合型地域スポーツクラブ HEROES クラブ代表 井之上 千秋		
所在地	福岡県福岡市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト		
代表者	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会 理事長 川名 薫		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	廃校小学校を核としたスポーツコミュニティの構築・再興（Nature-Trail・Run&Curolling）-地域共創		
代表者	都会と田舎を結ぶ食育ネット 代表 小田 清隆		
所在地	愛媛県喜多郡内子町	助成金額	500,000円
プロジェクト名	海を歩こう 人間の力で。子供と海の絆		
代表者	サーフガード波守 代表 木村 陽二		
所在地	沖縄県島尻郡久米島	助成金額	500,000円
プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業		
代表者	特定非営利活動法人 落倉バックカントリーフィールド 理事長 高橋 誠		
所在地	長野県北安曇郡白馬村	助成金額	500,000円
プロジェクト名	放課後スポーツ教室の推進により、子供の体力の向上及び異年齢子供集団の形成		
代表者	特定非営利活動法人 横浜かもめanimaクラブ 理事長 堤 文治		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業		
代表者	特定非営利活動法人 木曾川文化・スポーツクラブ 理事長 日比野 隆夫		
所在地	愛知県一宮市	助成金額	320,000円
プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル		
代表者	特定非営利活動法人 とちぎユースワークカレッジ 理事長 横松 陽子		
所在地	栃木県宇都宮市	助成金額	500,000円

**E. 実践助成 継続（3年目）** [助成件数：3件、合計金額：1,360,000円]

プロジェクト名	鬼首地区の活性化に向けたスナッグゴルフの普及と定着を目指して		
代表者	鬼首地域づくり委員会 委員長 大場 雅之		
所在地	宮城県大崎市	助成金額	360,000円
プロジェクト名	黒潮の海で、家族一緒に笑顔と元気を回復する海洋スポーツプロジェクト		
代表者	特定非営利活動法人 オーシャンゲート ジャパン 代表 白杉 芳彦		
所在地	大阪府大阪市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	乗馬を通じた障がい者と市民との地域共生・絆事業		
代表者	東京障害乗馬協会 会長 渡辺 廣人		
所在地	東京都東村山市	助成金額	500,000円



**F. 東日本大震災復興支援特別助成** [助成件数：3件、合計金額：2,500,000円]

\*個人研究

プロジェクト名	多重被災による長期避難生活者の身体活動・参加と健康に関する調査 (調査・研究 新規)		
代表者	大規模災害後の心のケアを推進するボランティアの会 会長 天谷 真奈美		
所在地	東京都清瀬市	助成金額	1,500,000円
プロジェクト名	被災児童に対するウォーターワイズプログラム構築に関する調査・研究 (調査・研究 継続2年目)		
代表者	石巻専修大学 准教授 山内 武巳*		
所在地	宮城県石巻市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	いしのまきテイクテン！プロジェクト (実践 継続3年目)		
代表者	特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 理事長 西山 徹		
所在地	東京都千代田区	助成金額	500,000円

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム  
**2014 年度 調査・研究助成 推薦理由**

**A. 調査・研究助成 新規**

プロジェクト名 : 多重被災による長期避難生活者の身体活動・参加と健康に関する調査  
代表者名 : 大規模災害後の心のケアを推進するボランティアの会  
会長 天谷 真奈美

**<推薦理由>**

福島原発の事故が起きるまでの大熊町は、まるで絵に描いたような幸せな地域であった。それが一転して、予期せぬ多重災害に遭遇した。住民の受けたダメージは計り知れないものがある。しかし、私たちはこれを一地域の問題ではなく日本国民の問題として重く受け止め、リスクマネジメントの観点、ダメージコントロールの観点から指針を策定していく必要がある。

本研究は、コミュニティ成立の基本条件とは何かについて必要な基礎的な調査研究に相当する。住民の住民による住民のための QOL の確保とは、どうあるべきかについて提言するにあたり、本研究は必須の前提条件だ。また、PTSD など負の遺産の解決にはどう取り組むかについても重要な基礎データとなるだろう。

\* \* \*

プロジェクト名 : トップスポーツと地域との好循環モデルの構築に関する理論的・実証的研究—プロ野球球団による少年野球アカデミー事業を具体例として—  
代表者名 : 名古屋セカンドキャリア研究会 中京大学 教授 石堂 典秀

**<推薦理由>**

プロ野球選手のセカンドキャリアについては、従来その実態はあまりつまびらかにされていなかった。一部のスーパー・スターにのみスポットライトが浴びせられるが、その陰にはプロスポーツ選手として活躍することなく引退後は好ましくないキャリアを送る選手が多いと言われてきた。

本プロジェクトは、この点に注目し、コミュニティスポーツとトップスポーツとのブリッジングを図る画期的な研究である。その実現は必ずしも容易ではなかろうが、本研究によって実態が明らかになり、いかにすれば効果的なコラボレーションが出来るかの道筋が示されることを期待したい。現場の青少年に、より多くの夢を与えてあげたいものである。

\* \* \*

プロジェクト名 : コミュニティスポーツの普及や定着の程度を測る尺度の作成と応用  
～高齢者向けの運動プログラムを例にとって～  
代表者名 : 三重大学 教育学部 准教授 重松 良祐

**<推薦理由>**

本研究は、コミュニティスポーツとしての展開が期待できる運動プログラムが、地域においてどの程度広まり、需要・継続されているかを測定する尺度を作成し、その適用可能性について検証するものである。

ここで企図されている地域社会レベルでのスポーツの普及と受容・継続の程度を評価する測定手法を開発するというアプローチは斬新であり、価値ある成果を期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 運動を柱とした自主サークル活動の継続が高齢者の身体的側面・社会心理的側面に及ぼす影響

代表者名 : 特定非営利活動法人 長崎ウェルネススポーツ研究センター  
理事長 中垣内 真樹

**<推薦理由>**

少子高齢化、過疎化が進む離島地域を対象とした運動プログラム介入という、社会的に支援が十分行き届いていない人たちの自律を支援する研究である。申請者等は、これまで継続して離島地域を対象に活動を進めてきており、地域住民の自主サークルの形成・展開に着実に成果をあげてきた。

本研究によって、自主サークル活動による身体的側面、社会心理的側面への影響が明らかになる。またそれ以上に、離島の過疎地域における「サークル活動の社会的意義」を通じて、「コミュニティスポーツ推進」の意義が明らかとなるよう期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 不可避的なスポーツ事故をめぐる補償の在り方の研究

代表者名 : 同志社大学大学院 総合政策科学研究科  
博士課程前期 中村 周平

**<推薦理由>**

一般に、スポーツの効果ばかりが強調されるが、本研究はスポーツの負の部分にも着目した重要な価値をもつ研究である。スポーツ事故はコミュニティスポーツの展開を図る上での阻害要因になる。スポーツ事故に関するニュースは誰もが見聞きするが、これを一事例として済ませるのではなく、「スポーツ事故を取り巻く現状」について正面から向き合うとする研究姿勢を高く評価したい。

スポーツ事故の補償の在り方を探ると共に、「安全で安心なスポーツ環境の構築に向けた礎」には何が必要か、このことが「コミュニティスポーツ」にどのように寄与するかが明らかとなるよう期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 地域密着型プロスポーツ組織と地域社会との有機的関係に関する研究と実践ーオーラル・ヒストリーの分析と映像アーカイブ化ー

代表者名 : 新潟経営大学 スポーツマーケティング研究室 (福田ゼミ)  
准教授 福田 拓哉

**<推薦理由>**

プロスポーツ組織が地域にもたらすインパクトやその価値を見出すために、地域密着型のプロスポーツ組織に光を当て、記録・発信していこうとする試みであり、地域住民の語りとして映像化しようとするアプローチはユニークである。

地域住民の語りから地域密着型プロスポーツ組織と地域社会との有機的関係が浮き彫りにし、これを理論化したり、映像による史料を残すことが次世代への価値の伝承につながるという意味においても、本研究は貴重なものになるだろう。

\* \* \*

プロジェクト名 : 公共スポーツ施設を核として指定管理者が促す地域協働を通じたコミュニティスポーツの促進

代表者名 : 東京工科大学 助教 松橋 崇史

**<推薦理由>**

コミュニティスポーツの実践を支える公共スポーツ施設の指定管理者が促す地域協働は重要であるが、容易な課題ではない。本研究は、地域協働をもたらす自治体側と指定管理者側の要因（ならびにその関連）を抽出し、これらが地域協働の促進に与える影響と、それによってもたらされる地域協働の効果について検証しようとするものである。

本研究の成果は、さらなる理論研究へとつながることも想定され、その波及効果にも期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 視覚障がいパラリンピアン競技力向上とコミュニティスポーツ参加を目的とした調査研究

代表者名 : 筑波大学人間系内パラリンピック研究・支援グループ  
筑波大学 人間系長 宮本 信也

**<推薦理由>**

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、早急なる支援体制・環境の整備等が求められる中、未だ道半ばの状況にある。

その中で視覚障がい者のコミュニティスポーツ参加への障壁を明らかにし、障がい者と健常者が共に参加できるコミュニティスポーツの場を創出できれば画期的なものとなる。本研究によって、視覚障がいのある青少年のスポーツ活動の促進と未来のパラリンピアン育成につながるよう期待したい。

## B. 調査・研究助成 継続

プロジェクト名 : スポーツと立ち直りについて

代表者名 : 被害者と司法を考える会 代表 片山徒有

### <推薦理由>

受刑者が社会復帰に至るまでに、刑事・矯正施設での生活や矯正過程に「コミュニティ」という存在は大変重要であり、「スポーツ」が彼らの更生にもたらす意味は計り知れないものがある。

昨年度の日本の現状を調査した結果をもとに、今年度の海外での事例調査と照らし合わせながら、日本における受刑者の更生プログラムや社会復帰プログラムへのコミュニティスポーツの導入という新たな視座が得られると共に、他にも類を見ない取り組みだけにその研究成果に期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 自閉症スペクトラムのある児童のためのスポーツワークショップの開発とスポーツワークショップを通じたコミュニティ形成のためのプログラム開発

代表者名 : 金沢大学子どもこころの発達研究センター 特任助教 竹内慶至

### <推薦理由>

本研究はスポーツワークショップを通して自閉症児の社会スキルの獲得を目指した研究である。昨年度の研究過程では着実に成果が得られ、これまでの研究活動の実績と大学にあるワークショップサークルとの共同事業であることを考えると、今年度の研究目標である「大学カリキュラムとの連動による教育プログラムの展開」、「ワークショップ本の制作」も実現可能性が高いと思われる。

専門性に裏付けられた構想／研究計画であり、「コミュニティ形成のための市民、市政、大学の基盤形成」につながるよう期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 子どもの運動・スポーツに対して親がサポートしやすい生活環境とは？  
～妊婦を対象とした個人・家庭・地域レベルからのアプローチ～

代表者名 : 東北大学大学院医工学研究科 教授 永富良一

### <推薦理由>

子どもの体力低下および運動不足が問題となっているなか、子どもの運動量の維持向上のためには、家庭において保護者が積極的に子どもの運動やスポーツを支援することが重要とされている。

本研究は、出産後18か月の母親を対象として、妊娠時から出産後までの身体活動の状況ならびに子どもへの働きかけ（環境）を調査することで、妊婦の身体活動量の決定要因ならびに子どもへの運動サポートを可能とする生活環境について、個人・家庭・地域レベルで明らかにすることを目的としている。昨年度の進捗も順調であり、今年度も継続することによって着実な発展を期待したい。

\* \* \*

プロジェクト名 : 被災児童に対するウォーターワイズプログラム構築に関する調査・研究  
(復興支援特別助成)

代表者名 : 石巻専修大学 准教授 山内武巳

**<推薦理由>**

昨年度、震災の被害を受けた子どもたちを対象に、海を実践の場として「海で聴く」「海で観る」「海で感じる」の3要素から成るプログラムを構築し、知識や技術習得のためのカリキュラーワーク主体ではなく、アクティビティな感覚でプロジェクトを実施していくことに期待し助成をした。

子どもたちへのプログラムの実施時期が夏期ということもあり、研究の成果はまだ明らかとなっていないが、今年度は昨年度に構築したウォーターワイズプログラムの普及に期待したい。

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム  
**2014 年度 実践助成 プロジェクト概要**

**<新規助成>**

プロジェクト名	持続可能な自然活用によるスポーツ振興、観光振興のモデルケース開発プロジェクト
団体名	スリーピークスハヶ岳トレイル実行委員会（山梨県北杜市）
実践概要	多種多様な動植物が生息するハヶ岳を舞台にトレイルレース「スリーピークスハヶ岳トレイル」を実施し、走る喜びを実感しながら環境維持にランナーができることを考える機会づくりに取り組む。

プロジェクト名	船岡山ラジオ塔復旧修繕による住民の健康増進と地域防災拠点の整備
団体名	船岡山ラジオ体操クラブ（京都府京都市）
実践概要	京都市の船岡山公園にある昭和の文化遺構のラジオ塔を修復し地域でのラジオ体操放送を行う。修復したラジオ塔は、住民一人ひとりの健康維持増進のシンボルとしながら災害時の放送設備としても活用していく。

プロジェクト名	年間10種目以上のスポーツ体験活動【スポーツ探検隊】
団体名	F I K A S P O R T S C L U B（神奈川県秦野市）
実践概要	「遊び場としてのスポーツ教室」を理念とし、ジュニア期の子どもたちに多種目のスポーツプログラムを提供することで子どもたちの「スポーツが好き」という心を育み、スポーツ活動へのスムーズな参加を促す。

プロジェクト名	小児がんをはじめ長期療養中の子ども達の体力維持のためコミュニティスポーツプログラムづくりと実践
団体名	特定非営利活動法人チャイルド・ケモ・ハウス（兵庫県神戸市）
実践概要	小児がんをはじめ長期入院および在宅療養中の子どもたちが、楽しみながら体力維持ができるようなコミュニティスポーツのプログラムを開発・実践し、子どもたちと家族の精神的負担をやわらげることで社会復帰の足掛かりをつくる。

プロジェクト名	子供達の逞しい成長が地域を変える！スポーツ+αプロジェクト
団体名	AKISPO U-9 SUPER KIDS PROJECT AKITA（秋田県秋田市）
実践概要	秋田県において、地域の将来を担うスポーツを行う子どもたちに対して、スポーツ+α（職場体験、コミュニケーション講座等）の機会をつくることで、教育の連携や社会との接続を通じた人材育成に取り組む。

プロジェクト名	サイクリング i n 四国西予ジオパーク
団体名	のむらスポーツクラブ（愛媛県西予市）
実践概要	愛媛県西予市の野村・城川「四国西予ジオエリア」において、サイクリング会を実施する。サイクリングで地域をめぐることで自然や生態系、人々の暮らしを実感する機会をつくとともに参加者の交通ルール・マナーの意識向上、世代を超えた交流促進を目指す。

プロジェクト名	子ども v s 親 サッカー大会～次は必ず勝ってやる！！～
団 体 名	特定非営利活動法人 大豆戸フットボールクラブ（神奈川県横浜市）
実 践 概 要	子ども 400 人を抱えるサッカークラブにおいて、子 vs 親によるフットサルの試合を実施することで、親同士の関係および子どもたちのナナメの関係（友達の父母）づくりに取り組む。

プロジェクト名	ユニバーサルスポーツを活用した地域の輪形成プロジェクト ートランポリンで、幼児から高齢者、障がい者を結ぶー
団 体 名	一般社団法人 善行大越スポーツクラブ（神奈川県藤沢市）
実 践 概 要	新旧住民、多様な世代が生活する藤沢市善行大越地区において出張トランポリン教室を開催し、幼児・高齢者・障がい者などの社会的弱者と健常者との交流をはかり、トランポリンを通じた地域づくりに取り組む。

プロジェクト名	障がいを持つ高校生の放課後スポーツクラブ「KAAC」
団 体 名	江南高等特別支援学校放課後活動クラブの会（通称KAAC）（新潟県新潟市）
実 践 概 要	部活動がないため、多く放課後の居場所がない高等特別支援学校に通う生徒が通えるバスケットボールクラブとフロアホッケークラブを設置し、年齢や立場が違う人も巻き込みながら楽しめるスポーツクラブづくりを目指す。

プロジェクト名	孤立・非行少年たちのステップアップ・フットサル！
団 体 名	特定非営利活動法人 全国こども福祉センター（愛知県名古屋市）
実 践 概 要	孤立・非行の問題を抱える少年たちに対して、居場所として月に 1 回のフットサルゲームを実施し、少年たちの自己肯定感の向上とともにチームの仲間や地域との交流促進を目指す。

プロジェクト名	多様な子どもたちへ未来をつなぐグローバルな体験交流促進事業
団 体 名	フレクティブ（静岡県浜松市）
実 践 概 要	静岡県浜松市において、外国人の子どもと日本人の子どもの交流を促すため、マダガスカル発祥の競技「クバーラ」を実施する。スポーツを通して外国人の子どもが地域コミュニティと持続的に交流できるつながりづくりに取り組む。



## <継続助成 2 年目>

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト
団体名	総合型地域スポーツクラブ HEROES（福岡県福岡市）
実践概要	助成1年目は、身体活動の機会が少ない発達障がい児の健全な発育と、発達障がい児をめぐる様々な課題の解決を目的に、専門家によるコーディネイティブ運動を取り入れたレクリエーション(遊び)に取り組んだ。助成2年目は、取り組みの中で気付いた「家族的つながり」の重要性から対象者を健常者にも広げる。また、地域、行政、学校、専門家との連携を深め、障がい児・者を取り巻く課題への関心を喚起していく。

プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト
団体名	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会（神奈川県横浜市）
実践概要	助成1年は、乳がん、婦人科系がんの手術後、後遺症や再発の不安をかかえて孤立しがちな女性たちに対し、「女性のがん手術後のリハビリ体操」、「啓発セミナー」、「ガーゼ帽子づくり&おしゃべりサロン」を実施し、心身のリハビリテーションや、仲間と出会い思いを分かち合う機会を創出した。助成2年目は、これらの取組みを継続し、内容の充実と参加者の拡充に努める。

プロジェクト名	廃校小学校を核としたスポーツコミュニティの構築・再興（Nature-Trail・Run&Curolling）-地域共創
団体名	都会と田舎を結ぶ食育ネット（愛媛県内子町）
実践概要	助成1年目は、自然豊かな愛媛県南予地域の活性化を目指して、都会の子供たちを対象とした「食育」の体験活動をベースに、自然と親しみ世代間交流をはかるトレイルスポーツに取り組んだ。助成2年目は、同地域において廃校になった小学校を核に地域住民と学生がともに野山を活用したスポーツのコース設定、開発、整備を行うことで地域の共創に取り組む。

プロジェクト名	海を歩こう 人間の方で。子供と海の絆
団体名	サーフガード波守（沖縄県久米島）
実践概要	助成1年目は、沖縄県久米島において、子どもたちが海に親しみを持ち、また危険回避やその対処方法について学んでもらう事を目的に、海でのスタンドアップパドルボードを活用した体験事業を実施してきた。助成2年目は、さらに福島から避難してきている子どもたちにも参加機会を提供しながら子ども自身の発案によるプログラムを実施する。

プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業
団体名	特定非営利活動法人 落倉バックカントリーフィールド（長野県白馬村）
実践概要	助成1年目は、長野県北安曇郡白馬村において、スポーツの提供や指導員の養成事業を通じて、地域の新たな楽しみ方を提案し、観光振興をはかるとともに、自然を活用することで地域の活性化に取り組んだ。助成2年目は、季節に応じたスポーツプログラムの提供や指導者のレベルアップ、そして地域を超えての普及活動に取り組む。

プロジェクト名	放課後スポーツ教室の推進により子どもの体力の向上及び異年齢子ども集団の形成
団体名	特定非営利活動法人 横浜かめanimaクラブ（神奈川県横浜市）
実践概要	助成1年目は、子どもたちの体力の低下が下降線をたどる中、放課後の時間を使って子どもたちに身体を動かす楽しみを感じてもらおうプログラムを地域を巻き込みながら実施してきた。助成2年目は、このプログラムを深化させ、“遊び”をベースにした放課後スポーツ教室や幅広い種目の運動体験の実施、そして地域と家庭との連携に取り組む。

プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業
団体名	特定非営利活動法人 木曾川文化・スポーツクラブ（愛知県一宮市）
実践概要	助成1年目は、地域の子どもたちの課外活動の一環として、日頃の学校生活では学べない体験プログラムを月に2回、小学校を拠点として実施してきた。助成2年目も引き続き体験プログラムを実施し地域のスポーツ推進委員のサポート体制を確立する。また、子どもたちが地域に関わる中で地域における居場所を見つけ、自らの可能性を認識する機会づくりに取り組む。

プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル
団体名	特定非営利活動法人 とちぎユースワークカレッジ（栃木県宇都宮市）
実践概要	助成1年目は、栃木県内において、ひきこもり、ニートの若者の社会参画を目的に、人間関係の不安の解消と体力づくりのきっかけとなる体育祭や球技大会を実施し、若者自身の成長の場を提供した。助成2年目においては、多くの団体と連携し、関連団体への参加を促すことで誤解を受けがちな若者の実態や可能性についての周知に取り組む。

### <継続助成3年目>

プロジェクト名	鬼首地区の活性化に向けたスナッグゴルフの普及と定着を目指して
団 体 名	鬼首地域づくり委員会（宮城県大崎市）
実 践 概 要	助成1年目は、鬼首地区公民館事業の新たなスポーツレクリエーション部門の柱の一つに、スナッグゴルフを据え、地元鬼首小学校への活動支援や、地区民が楽しく集える交流活動を進めながら、一人ひとりの健康の保持増進と鬼首地区の活性化へとつなぐ活動を行った。 助成2年目は、この活動をさらに充実させ、温泉協会やダム管理所の協力を得ながら講座や大会を実施した。 助成3年目は、関係団体との連携を強め、地元の人たちだけではなく鳴子や鬼首を訪れる観光客へもスナッグゴルフの楽しさを広めることにより、さらなる地域活性化をはかっていく。

プロジェクト名	黒潮の海で、家族一緒に笑顔と元気を回復する海洋スポーツプロジェクト
団 体 名	特定非営利活動法人 オーシャンゲート ジャパン（大阪府大阪市）
実 践 概 要	助成1年目は、和歌山県白崎海洋公園において、様々な状況や環境のなかで苦心している親子を迎えて、笑顔と元気を回復するための海洋体験を実施した。 助成2年目は、心のケアやリハビリにも力を入れ、リラクゼーションと呼吸法を学ぶ海洋プログラムを行う中で、親子だけではなく兄弟やサポーターがともに元気になり、また地域との関係も作ることができた。 助成3年目は、より子どもたちの心身のバランスを整えるために臨床心理士や医療スタッフ等、専門家の協力を得ることで海洋スポーツプログラムの重層化に取り組む。

プロジェクト名	いしのまきテイクテン！プロジェクト（復興支援特別助成）
団 体 名	特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構（東京都千代田区）
実 践 概 要	助成1年目は、石巻市の北上地区を中心に、元気で長生きのための運動と栄養の複合プログラム「テイクテン」を用いて仮設住宅の住民の健康維持活動を通じたコミュニティづくりに取り組んだ。 助成2年目は、他地域においても「テイクテン」の実践と「テイクテンリーダー」の育成を行い継続的に「テイクテン」を開催できる仕組みを構築した。また、学生主体による「いしのまきテイクテン」のプロジェクトを立ち上げた。 助成3年目は、社会福祉協議会や石巻専修大学と協力しながらさらなるリーダーを育成し、また、リーダー同士や他地域の参加者間の交流機会も設け、地域の人々による「いしのまきテイクテン」の継続的な開催に向けた支援を行う。

プロジェクト名	乗馬を通じた障がい者と市民との地域共生・絆事業
団 体 名	東京障害者乗馬協会（東京都東村山市）
実 践 概 要	助成1年目は、障がい者とボランティアとが、障がいの種別・年齢・性別等の区別なく協働して、定期的に障がい者乗馬会を定期的で開催し、障がい者も健常者も乗馬を互いに楽しみながら成長していく取り組みを行った。 助成2年目は、馬に関する基礎知識等のリーフレットを作成、配布し、障がい者乗馬への理解促進を図った。 助成3年目は、乗馬会や馬術大会などの実施に加えて、参加ボランティアの定着に向けた取り組みや馬に関する知識を深めるツールの作成、そして2020年の東京パラリンピックに向け、運営支援や国際交流・ボランティア活動等の勉強会を実施する。

## 2014 年度 応募状況・選考プロセス

### 応募状況

#### A. 調査・研究助成

新規助成の応募総数は 61 件（前年度比－14）であった。

応募研究者または研究機関等が所在する地域は 23 都道府県にわたり、地域ブロック別では「関東」が 37.7%（前年度比－5.0）、「近畿」が 29.5%（同＋4.2）が多く全体の 7 割弱を占めた。

応募研究者または研究機関等が選択した研究課題は①コミュニティスポーツの開発と実践手法に関する課題 31.1%（前年度比＋12.4）、②コミュニティスポーツへの参加促進と支援方策に関する課題 23.0%（同＋0.3）、③コミュニティスポーツの健康への影響評価に関する課題 23.0%（同－3.7）、④コミュニティスポーツの普及に関する課題 13.1%（同＋2.4）、⑤コミュニティスポーツの社会基盤構築に関する課題 6.6%（同－5.4）であった。

応募者の属性は研究者等の「個人」が 42.6%（前年度比－2.7）、研究機関や NPO 等の「組織」が 57.4%（同＋2.7）であった。

継続助成の応募総数は 5 件であった。

#### B. 実践助成

新規助成の応募総数は 95 件（前年度比－12）であった。

応募団体が所在する地域は 33 都道府県にわたり、全国から幅広く応募があった。

応募団体が選択した実践課題は①三世代型コミュニティスポーツの実践 12.6%（前年度比－8.0）、②参加型コミュニティスポーツの実践 33.7%（同＋4.7）、③地域活性化型コミュニティスポーツの実践 25.3%（同＋2.9）、④コミュニティスポーツの開発と普及 10.5%（同＋0.7）であった。

コミュニティスポーツの「参加」「地域活性化」に関する実践課題は増加したが、「三世代・多世代」に関する実践課題は減少している。

応募団体の法人形態は「任意団体」が 49.5%（前年度比＋7.4）、「NPO 法人」が 38.9%（同－8.8）であり、任意団体と NPO 法人の応募割合は前年度と逆転している。

継続助成の応募総数は 11 件であり、「助成 2 年目」は 7 件、「助成 3 年目」は 4 件であった。

### 選考プロセス

#### A. 調査・研究助成

##### [新規助成]

新規助成は応募多数のため予備選考を実施した。予備選考体制は研究者、住友生命健康財団の職員、市民社会創造ファンドのプログラムオフィサー、各 1 名の計 3 名とした。

3 名の選考委員が 61 件について、応募要項に記載した「本プログラムの趣旨」「助成対象プロジェクト」への適合性を見るため書類審査を実施した。6 月 14 日の予備選考委員会では書類審査の結果をもとに審議を行い、本選考対象に相応しいと思われる 30 件を選出した。

本選考体制は研究者 3 名、NPO の中間支援組織 1 名、住友生命健康財団の役員 1 名の計 6 名とした。

6 名の選考委員が 30 件の応募書類を読み込み、各選考委員は選考基準「独創性」「専門性」「実現性」「社会貢献性」「民間性」の観点から総合的に高く評価した 5 件（推薦 4 件、準推薦 1 件）を選んだ。6 名の選考委員の内、誰か 1 名でも推薦または準推薦を付けた応募案件は 15 件あった。

7 月 10 日に開催した本選考委員会では選考委員長 1 名と選考委員 6 名が全員参加して 15 件につ

いて審議を行い、助成に相応しいと思われる 10 件を選出した。

選考委員会後、事務局が 10 件を訪問し、選考委員会での論点についてヒアリングを実施し、9 月 4 日に開催した委員長決裁会合にて選考委員長に報告した。選考委員長はヒアリング結果を踏まえ、最終的に助成件数 7 件、助成金額合計 800 万円と、東日本大震災復興支援特別助成 1 件、助成金額 150 万円を決定した。

#### **【継続助成】**

予備選考は実施せず、6 名の選考委員が応募のあった 5 件について、来年度の応募企画書と今年度の中間報告書を読み込み、今年度の実施プロジェクトの中間評価と、来年度の企画内容について評価を行った。

7 月 10 日に開催した本選考委員会で 5 件について各委員の評価結果をもとに審議を行い、継続助成に相応しいと思われる 3 件を選出した。9 月 4 日に開催した委員長決裁会合にて最終的に助成件数 3 件、助成金額合計 462 万円と、東日本大震災復興支援特別助成 1 件、助成金額 50 万円を決定した。

## **B. 実践助成**

#### **【新規助成】**

新規助成は応募多数のため予備選考を調査・研究助成と同じ体制で実施した。3 名の選考委員が 95 件について、「本プログラムの趣旨」「助成対象プロジェクト」「選考基準」の観点から書類審査を実施し、6 月 14 日の予備選考委員会で本選考対象に相応しいと思われる 36 件を選出した。

本選考体制は調査・研究助成と同じ体制で実施し、各委員が 36 件の応募書類を読み込み、選考基準「独創性」「協働性」「実現性」「社会貢献性」「民間性」の観点から総合的に高く評価した 6 件（推薦 5 件、準推薦 1 件）を選んだ。6 名の選考委員の内、誰か 1 名でも推薦または準推薦を付けた応募案件は 20 件あった。

7 月 10 日の選考委員会で 20 件について審議を行い、助成に相応しいと思われる 11 件を選出し、9 月 4 日の委員長決裁会合で助成件数 11 件、助成金額合計 520 万円を決定した。

#### **【継続助成】**

予備選考は実施せず、6 名の選考委員が、継続 2 年目に応募のあった 8 件については 1 年目のプロジェクトの中間評価と 2 年目の企画内容の評価を行い、継続 3 年目に応募があった 4 件については 1 年目の実績評価と 2 年目の中間評価と 3 年目の企画内容に対する評価を行った。

7 月 10 日の選考委員会でこれらを審議し、継続 2 年目は助成件数 8 件、助成金額合計 382 万円を、継続 3 年目は助成件数 3 件、助成金額合計 136 万円と、東日本大震災復興支援特別助成 1 件、助成金額 50 万円を選出し、9 月 4 日の委員長決裁会合で最終的に決定した。

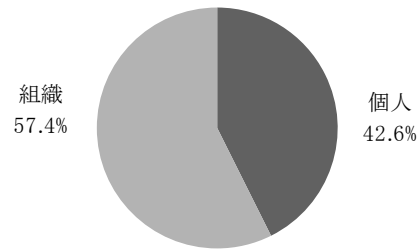
## 2014 年度 調査・研究助成(新規) 応募状況

○都道府県別にみた応募状況

都道府県		団体数	割合	
北海道	北海道	2	3.3%	
東北	青森	1	1.6%	
	岩手			
	宮城			
	秋田			
	山形			
	福島	1		
関東	茨城	23	37.7%	
	栃木			
	群馬			
	埼玉			
	千葉			
	東京			
	神奈川			
甲信越	山梨	2	3.3%	
	新潟			
	長野			
北陸	富山	1	1.6%	
	石川			
	福井			
東海	静岡	8	13.1%	
	愛知			
	岐阜			
	三重			
近畿	滋賀	18	29.5%	
	京都			
	大阪			
	兵庫			
	奈良			
	和歌山			
中国	鳥取	3	4.9%	
	島根			
	岡山			
	広島			
	山口			
四国	香川	0	0.0%	
	徳島			
	愛媛			
	高知			
九州	福岡	3	4.9%	
	佐賀			
	長崎			
	熊本			
	大分			
	宮崎			
	鹿児島			
沖縄	沖縄	0	0.0%	
		61	61	100%

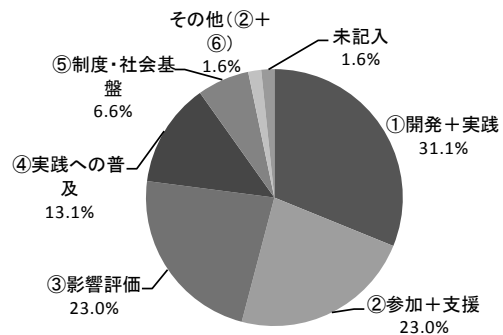
○応募者別(組織/個人)の応募件数と割合

	件数	割合
個人	26	42.6%
組織	35	57.4%
合計	61	100%



○調査・研究課題別の応募件数と割合

	件数	割合
①開発+実践	19	31.1%
②参加+支援	14	23.0%
③影響評価	14	23.0%
④実践への普及	8	13.1%
⑤制度・社会基盤	4	6.6%
その他(②+⑥)	1	1.6%
未記入	1	1.6%
合計	61	100%



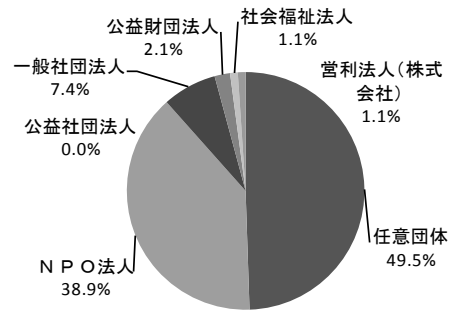
## 2014 年度 実践助成(新規) 応募状況

○都道府県別にみた応募状況

都道府県		団体数		割合
北海道	北海道	1	1	1.1%
東北	青森		6	6.3%
	岩手			
	宮城	3		
	秋田	1		
	山形			
	福島	2		
関東	茨城		26	27.4%
	栃木			
	群馬	1		
	埼玉	3		
	千葉	1		
	東京	14		
甲信越	山梨	2	5	5.3%
	新潟	3		
	長野			
北陸	富山	1	3	3.2%
	石川	1		
	福井	1		
東海	静岡	1	9	9.5%
	愛知	3		
	岐阜	2		
	三重	3		
近畿	滋賀	5	25	26.3%
	京都	2		
	大阪	6		
	兵庫	11		
	奈良	1		
中国	鳥取		5	5.3%
	島根	3		
	岡山			
	広島	2		
	山口			
四国	香川		4	4.2%
	徳島	1		
	愛媛	1		
	高知	2		
九州	福岡	2	8	8.4%
	佐賀	2		
	長崎			
	熊本			
	大分	2		
沖縄	鹿兒島	2	3	3.2%
	沖縄	3		
		95	95	100%

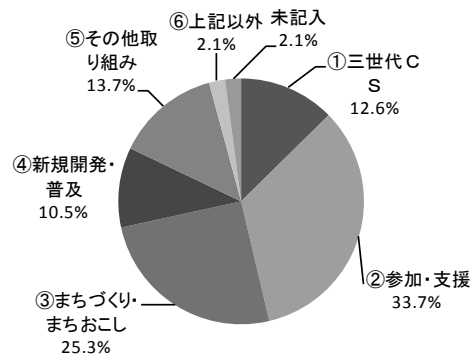
○応募者別(法人形態別)の応募件数と割合

	件数	割合
任意団体	47	49.5%
NPO法人	37	38.9%
公益社団法人	0	0.0%
一般社団法人	7	7.4%
公益財団法人	2	2.1%
社会福祉法人	1	1.1%
営利法人(株式会社)	1	1.1%
合計	95	100%



○実践課題別の応募件数と割合

	件数	割合
①三世代CS	12	12.6%
②参加・支援	32	33.7%
③まちづくり・まちおこし	24	25.3%
④新規開発・普及	10	10.5%
⑤その他取り組み	13	13.7%
⑥上記以外	2	2.1%
未記入	2	2.1%
合計	95	100%



## 財団概要

名 称 公益財団法人 住友生命健康財団  
所 在 地 〒160-0003 東京都新宿区本塩町 8 番地 2 住友生命四谷ビル  
TEL (03) 5925-8660 FAX (03) 3352-2021  
設立年月 1985 年(昭和 60 年)6 月  
2011 年(平成 23 年)4 月 1 日公益財団法人へ移行  
理 事 長 須崎 晃一

### 設立の趣旨

当財団は、住友生命設立 60 周年記念事業の一環として設立されました。  
広く国民に心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進  
に貢献する活動を推進することにより、国民の心身の健康と健やかな生活  
の増進を図り、もって社会公共の福祉に貢献することを目的としています。

◆ホームページでイベント情報などをお知らせしております。

住友生命健康財団

検索

<http://www.sumitomolife.co.jp/csr/kouken/kenkou/kenkou.html>